

中間報告書

令和5年9月7日現在

1 事業名 演劇手法を用いた要配慮者の避難行動支援ワークショップ

2 実施期間 令和 5年 4月 1日～令和6年2月29日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

要配慮者が災害時に避難行動する際の不安や遠慮、ためらい等の困難さがあることを、演劇の手法を用い、参加者自らが疑似体験することで理解し、円滑な避難行動へ結びつけるためにはどのような関わりが必要かを知っていただくことで、逃げ遅れゼロのまちづくりを目指す。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

- ・第1クール・老いと演劇・防災ワークショップ（1クール5回）の開催。

実施地域：倉敷市真備町

対象地域：備中県民局管内

第1回ワークショップ

狙い：相手の気持ちを受け入れることを学ぶ

実施日：令和5年6月22日（木）

進め方：少人数のグループに分かれ、相手から否定・無視の対応、共感・受容の対応をされた時の感じ方の違いについて学ぶ

具体的な内容：

- ・YES&ゲーム

二人組に分かれ、相手の思い付きの発言を「いいですね」と肯定的に受け止め、さらに「（それを実現するために）○○しましょう」と付け加え、相手の反応を見る。

- ・見えないものが見えるという人の意見を否定し、現実に戻すような関わりを演じ、否定された時の感じ方を知る。

- ・代表者数名でグループで会話している途中に、本から抜き出した単語を無意味に話し、その発言を否定無視される反応と受け入れられる反応をし、どちらの感じ方も共有する。

成果：否定無視されると意固地になって、ますますこちらの意見に耳を傾けようとしないうこと、肯定的に捉えられると、気分が良くなり、こちらの発言にも耳を傾けやすくなることを体験的に学ぶことができた。このことから、災害時の要配慮者に避難の声掛けをする際、一方的に避難を促すよりも、相手の困難さや気持ちに耳を傾ける必要性を自ら感じ、関わり方の工

夫が必要であることを学ぶことができた。

第2回ワークショップ

狙い：相互理解について学び、災害時の避難行動を考える

実施日：令和5年7月6日（木）

進め方：少人数のグループに分かれ、地域の困った方の噂話から即興劇のストーリーを考え、グループ間で発表する。

具体的な内容：

各グループで、地域の中で対応に困る方の例を挙げ、噂話的に即興劇で発表する。発表後、その困った方がそのような行動をする理由をグループで話し合い、解決策を探り、再度即興劇として発表する。

成果：

こちらの考えを一方向的に押し付けて説得しても相手の心は動かないことをグループでの話し合いの場面で共有し、相手の心を動かすための関りについて、グループで話し合いを行った。結果、全グループで相手の気持ちを受け入れ、共感的にかかわるという結論に至った。このことは、災害時の要配慮者の避難行動に通じる関りであることを学ぶことができた。

第3回ワークショップ

狙い：災害時の要配慮者の避難について学ぶ

実施日：令和5年7月27日（木）

進め方：要配慮者マイタイムラインについて説明の後、少人数のグループに分かれ、災害時の避難についてストーリーを考えグループ間で演じる。

具体的な内容：

各グループに分かれ、災害時の避難に対して否定的な要配慮者の設定と避難したくない理由を考える。その要配慮者に対して、説得と共感2パターンの関り方の内容のショートストーリーを考え、グループ間で演じ合う。

成果：

要配慮者の避難行動計画を検討する上で、計画立案に否定的な方に対する関わり方を学ぶことができた。共感する相手の立場や関係性についてもグループで丁寧に検討し、設定することで、どのような方であれば相手の気持ちを動かすことができるのかといった日頃の関係性についても考える機会となった。

第4回ワークショップ

狙い：様々な側面から一人の要配慮者を理解する。

実施日：令和5年8月10日（木）

進め方：一人の対象者（地域の困った人）について、家族、地域住民、支援者それぞれのグループに分かれてストーリーを考える。

具体的な内容：講師から、地域の困った人＝玄関の呼び鈴を押して歩く「花子さん」と設定し、家族、地域住民、支援者のグループに分かれ、それぞれの立場からの困りごとを話し合い、対立する意向について話を深め、即興劇で演じる。

成果：多様な価値観について学ぶことができた。実生活では、自分の価値観でしかものを見ることはないが、一つの事例から、様々な立場の方のストーリーを見たり演じたりすることで、自分以外の立場の方との考えの違いを理解し、他者の気持ちを想像し、理解する体験ができた。日頃は自分の都合で物事を考えがちだが、人とつながりを持つことで、相手の想いを理解したり、共感したりする体験ができるということが分かった。このことは、要配慮者の個別避難計画作成の際、関係者で集まって話し合う場面で大切な視点であることを学ぶことができた。

第5回ワークショップ、発表会

狙い：発表会を通じて、観客と共に、様々な側面から一人の要配慮者を理解し、具体的な関わり方を考える

実施日：令和5年8月27日（日）

進め方：一人の対象者（地域の困った人）について、家族、地域住民、支援者それぞれのグループに分かれて、不幸せな結末のストーリーを考える。そのストーリーを発表会で上演し、観客と共に、どのように意識や関わり方を変えれば、幸せな結末になるかを話し合い、再度、上演する。

具体的な内容：講師と参加者で、地域の困った人の人物像を考える（「独居の高齢女性で、認知症の症状があり、身の回りのことができなくなっている」）。家族、地域住民、支援者のグループに分かれて、観客が観ていてつい働きかけたくなるような、不幸せな結末のストーリーを考える。午後の発表会で、それらのストーリーを上演し、観客にも希望のグループに入ってもらい、出演者と観客で話し合っただけでストーリーの練り直しを行う。その後、練り直したストーリーを上演する。エピローグとして、家族、地域住民、支援者の代表者が集まりケア会議のシーンを即興で上演する。

成果：観客と共に、要配慮者を家族、地域住民、支援者など様々な側面から理解し、具体的な関わり方を考えることができた。普段の自分の立場を離れ、別の立場から要配慮者を理解することによって、地域全体で要配慮者を支援することの重要性に気づくことができた。観客が劇に参加することで、認知症や防災などの地域の課題を自分ごととして考えてもらうことができた。

・先進地奈義町への視察・指導

狙い：MabiBokkeShi 立ち上げのため必要な知識を学ぶ。

内容：先進地である奈義町の劇団「OiBokkeShi」のメンバーを交えて、老いと演劇ワークショップを開催する。また、交流の時間を設け、OiBokkeShi が町ぐるみでの取り組みとなった経緯や工夫した点、改善してきた点等、今後の活動に必要なノウハウを学ぶ。

実施日：令和5年9月7日（木）

成果：OiBokkeShi のメンバーは、高齢者、認知症当事者、障がい者、介護者、専門職、地域住民、若者等、多様な方が参加されており、演劇と言う手法を使うことで、どんな方でも差別なく交流できているということを経験することができた。多様な方が参加することによって、より住民の参加へのハードルが下がり、ますます多様な方の参加が実現し、発展していること、そして、そのことで、継続するための変化が意図的ではなく、自然に生まれていることが分かった。また、演劇をワークショップとして開催するだけでなく、公演するという目標があることが、継続のモチベーションになっていると感じた。今回の視察指導により、このような素晴らしい取り組みを行っている OiBokkeShi のメンバーと協力体制を築くことができたことは大きな成果である。

・広報活動について

県民局のお声がけにより、FM 倉敷にて PR 活動を行った。また、今年度初回のワークショップについては、NHK 広島取材があり、防災関連の番組で紹介されている。前期発表会については、山陽新聞の取材があり、記事が掲載された。真備町服部地区では、地区社協主催のサロンへ講師の菅原氏とスタッフが招かれ、要配慮者の避難についての講話と演劇ワークショップについての説明、実際の即興劇を行い、住民に見ていただく機会を持った。9月2日には、アリオ倉敷にて備中県民局防災啓発ブースにスタッフ2名が参加し、協働事業のPRを行った。県民局とスタッフとで、県立高校、管内の大学へチラシを配布し、広報活動を行っている。

効果を高めるための工夫、仕掛け：

全ワークショップを通じ、一方的な講義式で学びの機会を提供するのではなく、グループでの対話や自ら演じることで体験的に理解することを重視した。結果、参加された方々は、要配慮者の避難行動や避難計画を立てる際の困難さ、関わり方の工夫、日頃からの関係性の持ち方について、楽しみながら学ぶことができていた。参加したことで、要配慮者の避難行動の困難さと平時の準備（要配慮者の避難計画）の必要性や、日常的になじみの関係になっておくことこそが重要であることを自発的に考え、学ぶ機会となっている。

<今後、実施すること>

- ・先進地奈義町「OiBokkeShi」倉敷市への招聘指導及び真備復興ツアー
講師菅原氏の協力の元、「OiBokkeShi」には依頼済み。県北バス会社の手配、会場の予約等実施済み。
- ・老いと防災・演劇ワークショップ開催のための企画会議。随時開催。
- ・第2回ワークショップ（1クール5回）及び受講者発表会の開催。
講師菅原氏には依頼済み。参加者募集は県民局の協力も得て実施。受講者発表会と併せて真備復興ツアー開催予定。バス会社には依頼済み。会場予約済み。
- ・寸劇動画完成報告会
動画撮影に関しては、外部の担当者に依頼済み。

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

アンケート結果から、30代以下の参加者が22%、40～59歳の参加者は49%あり、今回ターゲットとしていた若年層や労働世代の方の参加が一定数得られた。参加者の居住地を見ると、真備町外からの参加者の割合が66%であり、真備町以外の備中地域からの参加者も43%と一定数の参加があったため、備中地域全体から参加者を募ることができている。

認知症と防災の関連性が「ある」回答した人の割合は99%に上り、参加された若い世代にも認知症と防災の関連性を理解していただくことができている。

また、要配慮者の避難に対する困難さについては99%が「理解できた」と回答しており、「相手の気持ち、価値観へ寄り添うことの大切さがわかった」「日頃からの関わり方について考え直すきっかけとなった」といった回答も多く寄せられた。

日頃の災害への備えについて「かなり変化した」あるいは「少し変化した」と回答した方の割合が96%と高く、このワークショップへ参加することで、多くの地域の方の意識変容につながる事が分かった。

地域連携型マイタイムラインについて、「（以前または今回の）WSに参加したことではじめて知った」という回答が24%あり、認知度の向上につながっている。

今後、ワークショップ及び発表会、復興見学ツアー等、県民局との協働により、様々な切り口で参加者を募集し、演じること、演技を見ることから、認知症をはじめとする要配慮者の気持ちと避難することの困難さを我が事として捉え、防災意識の向上を図っていき、逃げ遅れゼロのまちづくりに貢献したい。

・目標1

「認知症×防災×演劇」のワークショップの参加者及び発表会の参加者を増やす。

評価指標・測定方法	数値目標		
	当初	今年度	実績
多世代、真備町外の方を含めたワークショップの参加者数	1クール20名程度	1クール30名	平均22.7名

ターゲットにしていた若年層や40～50代の方の参加が半数を超えた。

真備町外の参加者は6割を超えた。

・目標2

「認知症×防災×演劇」ワークショップの参加者及び発表会の参加者にアンケートを実施し、理解が進んだかどうかを知る。

評価指標・測定方法	数値目標		
	当初	今年度	実績
アンケートにて、防災や認知症について新たな気づきがあった人の割合	—	80%	認知症への意識の変化＝ 演じた側78% 観客側80% 日頃の備えへの変化＝ 演じた側77% 観客側60%

・目標3

ワークショップと視察研修を通じて倉敷市に「防災×認知症」演劇クラブ(MabiBokkeShi 仮称)を立ち上げる。

評価指標・測定方法	数値目標		
	当初	今年度	実績
演劇クラブ MabiBokkeShi の登録メンバー	—	主要メンバー 5名 協力メンバー 10名	募集中 (9/1 現在 主要メンバー 5名 協力メンバー 6名)

④ 課題等

参加者の拡大について、県民局の協力もあり、FM 出演、管内の学校、市社協、市役所防災担当課、医療機関等への広報紙配布、SNS 発信等の工夫をしているが、そこから参加につながることは少なく、現状はスタッフからの口コミによる参加者がほとんどである。今後も県民局と協働しながら、備中地区への広がりを視野に入れた広報をどのように工夫するかが課題。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支(変更)予算書※

(収支(変更)予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した収支(変更)予算書のこと)

写真(データでも提出すること)

当日資料

アンケート結果 他

「老いと防災」 演劇ワークショップ

《2023 年度 - 前期》

超高齢社会や防災の課題に、「演劇」という切り口で挑む。
年齢や演劇経験は不問で、だれでも気軽に参加できる内容です。

受講者を募集します

■会場：ぶどうの家 BRANCH (住所：倉敷市真備町辻田 197)

■日時：① 2023 /6/22 (木) 18:00~20:00

② 2023 /7/ 6 (木) 18:00~20:00

③ 2023 /7/27 (木) 18:00~20:00

④ 2023 /8/10 (木) 18:00~20:00

⑤ 2023 /8/27 (日) 10:00~12:00

▶▶▶最終日に受講者発表会を行います◀◀◀

2023/8/27 (日) 13:30~15:30 (観劇費 500円)

■ワークショップ参加は無料です ⇒ 要申込

■申込み・問合せ：ぶどうの家 BRANCH (津田・西澤・杉原・山形・林)

⇒ 氏名、住所、TEL (携帯)、メールアドレス (あれば) を明記して次まで

MAIL: budoubranch@gmail.com

TEL: 086-697-5255 FAX: 086-697-5256

■講師：菅原 直樹 (すがわらなおき) さん

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。認知症ケアに演劇的手法を活用した

「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。

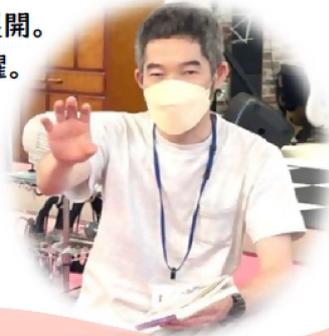
防災啓発動画の演出・脚本など、多方面で活躍。

認知症や防災について、

演じるなかで、自分ごととして考える。

理解を深めていく……。

よりよいまちづくりにつながる。



「老い」とか「認知症」とか言うても、100人居れば100の「物語」
があって、一つとして同じものはねえ。じゃから、おもしろえ。どれも
「演劇」になる要素を持つてる。ある意味、みんな、「役者」じゃと思
うなあ。いっしょにやろうや。待ってるで。

■ テーマ ■

「認知症」と「防災」に
「演劇」を切り口にアプローチする
「認知症」×「防災」×「演劇」

「認知症」とかけて
「防災」と解く
その心は
どちらも「つながり」が大事

演劇ワークショップ 先進地(奈義町)視察

令和5年度岡山県備中県民局提案型協働事業

真備での「認知症×防災×演劇」ワークショップも今年で3年目を迎えます。

「認知症×防災ってどういうこと？」と手探りで始めたこのワークショップも、回を重ねるごとに、その繋がりを「なんとなく」「ふんわりと」感じられているのではないのでしょうか？

今年度は、さらに学びを深めるため、奈義町へ出向き、今後の活動を継続させていくノウハウを教えていただく機会を作りました。奈義町のワークショップは、真備の取り組み以前から実践されており、町をあげての取り組みとなっています。そこに至るまでのいきさつや多様な人とのかかわり方、事業を続けていくコツ等、奈義の方々と交流することで、実践的に学んでみませんか？

日にち: 令和5年 **9月7日(木)**

集合時間: **午前8:50**

集合場所: **ぶどうの家フランチ**

(川辺セブンイレブンの北側です)

参加費: **1000円**(交通費として)+昼食代

日の丸タクシーで現地までご案内いたします。

昼食は、PIZZERIA La gita(ピッツェリア ラ・ジータ)の予定です。

お申込み・お問い合わせ先: **ぶどうの家フランチ**

086-697-5255

当日の予定

8:50 ぶどうの家 BRANCH 集合



9:00 BRANCH 出発



11:30 奈義町着



昼食 (PIZZERIA La gita(ラ・ジータ)の予定)



13:00 奈義メンバーと合流

ワークショップ開始



16:00 ワークショップ終了

奈義町出発



18:00 BRANCH 到着・解散



復興見学ツアー

～奈義から oibokkessi がやってくる～

日時: 11月9日(木) 10:30～13:30(昼休憩含む)

集合場所: まびいきいきプラザ(倉敷市真備町川辺2271)

参加費: 1000円 ワークショップ参加費・バス代(お土産付き)

※別途昼食代が 1200円 必要です。

復興ツアー: 真備町内の被災のあった場所、復興がわかる場所をバスで巡ります。

所々で語り部の方が当時の様子や復興への思いを語ってくださいます。

演劇ワークショップの内容: シナリオや練習は必要なし。参加者同士の対話から、認知症や防災についての演劇シナリオを作り、演じます。レクリエーション感覚で楽しみながら、防災や認知症について学び、考えることができます。



お申込み・お問い合わせ先:

ぶどうの家 BRANCH (ブランチ) 倉敷市真備町辻田197

086-697-5255

「老いと防災」 演劇ワークショップ

《2023年度 - 後期》

超高齢社会や防災の課題に、「演劇」という切り口で挑む。
年齢や演劇経験は不問で、だれでも気軽に参加できる内容です。

受講者を募集します

■日時：① 2023/12/7(木) 18:00~20:00

② 2024/1/11(木) 18:00~20:00

③ 2024/1/25(木) 18:00~20:00

④ 2024/2/1(木) 18:00~20:00

⑤ 2024/2/12(月祝) 10:00~12:00

■会場：①~④⇒ぶどうの家 BRANCH (倉敷市真備町辻田 197)

⑤⇒マービーふれあいセンター・さつきホール (真備町箭田40-1)

▶▶▶ **受講者発表会** を行います ◀◀◀

2024/2/12(月祝) 13:30~15:30 (観劇費 500円)

会場：マービーふれあいセンター・さつきホール

■ワークショップ参加は無料です ⇒ 要申込

■申込み・問合せ：ぶどうの家 BRANCH (津田・西澤・杉原・山形・林)

⇒ 氏名、住所、TEL(携帯)、メールアドレス(あれば)を明記して次まで

MAIL: budo.care@gmail.com

TEL: 086-697-5255 FAX: 086-697-5256

■講師：**菅原 直樹**(すがわらなおき)さん

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。認知症ケアに演劇的手法を
活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。

防災啓発動画の演出・脚本など、多方面で活躍。

「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。



認知症や防災について、
演じるなかで、自分ごととして考える。
理解を深めていく……。
よりよいまちづくりにつながる。

「老い」とか「認知症」とか言うても、100人居れば100の「物語」が
あって、一つとして同じものはねえ。じゃから、おもしろえ。どれも「演
劇」になる要素を持つとる。ある意味、みんな、「役者」じゃと思うなあ。
いっしょにやろうや。待っとるで。

■ テーマ ■

「認知症」と「防災」に
「演劇」を切り口にアフレコーナする

「認知症」×「防災」×「演劇」

その心は

「認知症」とかけて
「防災」と解く

どちらも「つながり」が大事